

# 琉球大学学術リポジトリ

## 米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来（総務長官等閣僚訪沖）(2)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-22 キーワード (Ja): 床次総務庁長官, ランパート米国高等弁務官, 中曽根防衛庁長官, ランパート米国高等弁務官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43237">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43237</a>

日  
程  
等

外務省  
 副外務審議官  
 官房長  
 官房総務参事官  
 官房書記官  
 国会班  
 アメリカ局長 Pt.  
 参事官  
 安全保障課長  
 北米第一課長  
 中曾根長官の訪沖  
 (防衛予選りの内報)

秘  
 無期限

(A. 在米大使館) 45. 9. 28  
 米北一  
 I 防衛予選り長官の参事官 総務課 (静江保長) にお  
 中曾根長官の訪沖日程について、郭内で  
 今決ったばかりで、29日(火) 外務省に文書  
 持参するが、とりあえず石河事務官に内報  
 するに活用しよう次(組)。 (郭外に招  
 表して石河参事官も次、この日(火) 中曾根長官の訪沖  
 日程の内報 (自)

中曾根長官のスケジュール  
 (1) 日程 10月7日 09:50 羽田発 (JAL 721)  
 10月8日 18:40 沖縄発 (JAL 722)  
 (2) 目的  
 在日米軍参事官 75人の中曾根長官の招待

により在沖縄米軍軍事事情視察の  
 (3) 随行者  
 江藤 参事官 (施設担当)  
 寿月 空将補 (統幕本4幕室長)  
 池田 秘書官  
 (4) その他  
 宿舎は未定で 詳細なスケジュール等  
 米軍が手配している。  
 2. 外務省に対する依頼  
 中曾根長官は高瀬大使との面会(ない)  
 意向であるので 沖縄の復帰準備等に  
 通報願いたい。  
 便宜供与は米軍が主として行う  
 とおなっている中で、外務省に特に依頼  
 することはないと思いが 細かい調整・打合

第1次要性が今後起る可程性も  
お初にお示しとの由。

II. 在京米大使館マヤ-ス-号3号は28日午前  
北米米-課長に於て長官の訪沖が8月20日

9日に決定(右二と主内報及右と並に、行方  
外務省と此の助言は在りかと右に収左

のこ、当方外私見ありと前置の上(1)局長  
主席との会見(記者会見等)沖能化を化能化

右行方は高麗大使を通じてルンビ-号と  
然るべき旨(先方同意) (6) 岸防局長

の果ては後刻に於て大使に調査を依頼  
右と然るべき旨(1) 長官(記者会見等)の旨  
(11)

右(1) (2) 基地整理扶助、自給隊進駐、毒ガス等  
は自由に許せざる如く、右にラ-ン-ト高年防局長等

米側との会談内容に於て、<sup>右</sup>加入弁言小等は、(当記者  
同意)が合意(2) (1) 然るべき旨(11) 述<sup>外務省</sup>べし。

防経外内報通

外務大臣  
事務次官  
外務審議官  
外務審議官  
官房長

米保長  
電報  
沖繩・北方対策庁長官  
外務省アメリカ局長

アメリカ局長  
参事官  
北米第一課長  
官総第28号  
4.5. 9. 29



防衛庁長官官房長

防衛庁長官の沖縄出張に伴う便宜供与  
について(依頼)

標記について、グラハム在日米軍司令官の招待により防衛庁長官中曾根康弘は、下記の者を滞同のうえに在沖米軍の軍事事情等視察のため昭和45年10月7日から同年10月8日までの間別紙第1の日程により沖縄に出張することとなりました。

つきましては、長官一行は10月7日(水)0950羽田発1330沖縄着(JAL721便)で出発し、10月8日(木)1840沖縄発2210羽田着(JAL722便)で帰京しますので、出張

要処理
首席事務官
南方
渉外調査
漁業
航空
科学協力
連絡調整
調査
カナダ
局庶務

アメリカ局  
45.10.03  
北米課

沖縄日報  
起  
中  
中  
3/10

期間中における便宜供与、特に屋良主席及び高瀬大使訪問のほか、民間団体による陳情があれば受ける意向であるのでよろしくお取り計らい願います。

記

防衛庁防衛局長	参事官	尖戸基男
統合幕僚会議事務局長	陸将	谷村弘
防衛庁施設参事官		江藤淳雄
統合幕僚会議事務局 第2幕僚室長	海将補	石樽信敏
長官秘書官	防衛庁部員	池田久克

添付書類：別紙第1「長官日程表」

別紙第2「在日米軍司令官招請状」(写)



	✓	1150 フェリー-氏政官未敬
		1320 状況説明 (和英 站司令部) 及び同施 設視察
C	✓	1300 へりて ホワイト・ビー 4へ
C	✓	1330 昼食 (ホワイト・ビー 4) 米俵及び高 瀬大使同席)
	✓	1430 ホワイト・ビー4 視察
	✓	1455 ミサイル基地視察
		1550 へりて与座安視察
		1645 ランポート及びクラ ムと最後の懇談
		1730 へりて那霸空軍 基地へ
	✓	1745 那霸空港で礼節 全見
		1840 那霸発 JAL 722 帰京へ

NAKASONE ITINERARY

WEDNESDAY, 7 OCTOBER

<u>Event</u>	<u>Time</u>	
1	0950	Depart Haneda via JAL Flt 721
2	1330	Arrive Naha - met by LGen Lampert and Graham and Amb Takase (Note 1)
3	1340	Depart Naha by helo for Hq USARYIS
4	1400	Call on HICOM with LGen Graham present
5	1430	Joint Services Briefing - HICOM Conf Rm (Note 2)
6	1500	Island over-flight
7	1630	Visit Kadena - AF briefing by 313th Air Div
8	1730	Free time at Tiger Inn, Kadena
9	1830	Reception hosted by HICOM at Top of Rock O Club - Yara, Takase and key Okinawans to be included
10	2000	Dinner hosted by Gen Graham at Gen Johnson Quarters - includes Takase

-----  
Note 1

There will be no press conference on arrival. Press will be kept off to one side. Any contacts will be limited to "on-the-run" questions.

Note 2

Gen Lampert departs Hq at 1445 for scheduled PREPCOM meeting which includes Yara and Takase.

THURSDAY, 8 OCTOBER

<u>Event</u>	<u>Time</u>	
11	0330	Depart Kadena by helo for Naha Air Base
12	0945	Naha AFB brief and tour by car with Gen Graham
13	0900	COMFLTACTS brief and tour with Capt Brown (Note 3)
14	0915	Naha Wheel and Port tour by car
15	1005	Courtesy calls on Amb Takase and Chief Exec Yara
16	1150	Courtesy call on Civil Admin, Mr. Fearey
17	1220	Second Log brief and tour
18	1300	Helo to White Beach
19	1330	Lunch at White Beach - includes Americans and Takase
20	1430	Tour White Beach
21	1455	Missile site tour
22	1550	Tour Yozadake via helo
23	1645	Final meeting with Gens Lampert and Graham - (Hot wash up)
24	1730	Helo to Naha Air Base
25	1745	Press conference at airport
26	1840	Depart Naha via JAL 722

-----  
NOTE 3

RADM Burke, CNFJ, will be present



秘密表示 (朱印)  
平

部 数 指 示	発 信 用	執 効 用	備 考
主 信	1	1	2
付	2		
員			

発送日 昭和45年10月5日  
処理日  
発信 受信 検査

\* 秘密標準 (赤色)

米批178号  
昭和45年10月5日

沖縄復帰準備委員会  
日本国政府代表 殿

外 務 大 臣

(件名)

中曾根防衛庁長官の訪沖

引用公・電信  
日付・番号

往電 米批一第210号

本件に関する 防衛庁長官官房長官の  
外務省アメリカ局長宛の公信 (副紙長官日程  
表英和両文) 早 1部 送付する。

\* 付属添付 付属空便 (行)  付属空便 (DP)  付属船便 (貨)  付属船便 (郵)

GA-2-1

外 務 省

(※印は文書課記入)

文書課長 (印) 公 信 案 (分類)

公 信 番 号 米批178号 公 信 日 付 昭和45年10月5日

大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参 事 官 北米第一課長	起 案 日 付 昭和45年10月5日 起 案 部 門 電話番号 446
協 議 先		
受 信 者 在 沖 繩 高 瀬 大 使	発 信 者 保 利 外 務 大 臣 代 理	
送 付 先	( 務 員 送 付 日 ) 10月3日	
件 名 中 曾 根 防 衛 庁 長 官 の 訪 沖		
GA-2	5 外 務 省	回 覧 番 号



官総第2827号

45. 9. 29

沖縄・北方対策庁長官  
外務省アメリカ局長 殿

防衛庁長官官房長

防衛庁長官の沖縄出張に伴う便宜供与  
について(依頼)

標記について、グラハム在日米軍司令官の招待により防衛庁長官中曾根康弘は、下記の者を滞同のうえに沖縄米軍の軍事事情等視察のため昭和45年10月7日から同年10月8日までの間別紙第1の日程により沖縄に出張することとなりました。

つきましては、長官一行は10月7日(水)0950羽田発1330沖縄着(JAL721便)で出発し、10月8日(木)1840沖縄発2210羽田着(JAL722便)で帰京しますので、出張

期間中における便宜供与、特に屋良主席及び高瀬大使訪問のほか、民間団体による陳情があれば受ける意向であるのでよろしくお取り計らい願います。

記

防衛庁防衛局長	<del>陸将</del>	尖	戸	基	男
統合幕僚会議事務局長	陸	将	谷	村	弘
防衛庁施設参事官			江	藤	淳
統合幕僚会議事務局 第2幕僚室長	海	将	補	石	樽
長官秘書官	防衛庁部員		池	田	久
					克

添付書類：別紙第1「長官日程表」

別紙第2「在日米軍司令官招請状」(写)



HEADQUARTERS  
UNITED STATES FORCES JAPAN  
COMMANDER

別紙 2

His Excellency Yasuhiro Nakasone  
Director General  
Japan Defense Agency  
Tokyo

Dear Minister Nakasone

May I take this opportunity to invite you and Mrs. Nakasone on a visit to Okinawa in late September or another date suitable to your availability. The purpose would be to meet with the High Commissioner, Lieutenant General Lampert, and to inspect key military installations at Naha and Kadena, plus other areas likely to be made available to the Self Defense Forces upon reversion. I would accompany you and would be happy to include two or three other members in your party.

Should this invitation meet with your approval, my office will be in touch with yours to make necessary detailed arrangements.

I trust that this letter finds you in good health and that your impending journey to the United States will be most successful.

Sincerely yours

*Gordon M. Graham*  
GORDON M. GRAHAM  
Lieutenant General, USAF  
Commander

(回覧番号 2316) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (機密・秘の朱印)	符号表示 (略)	※ 総第 03 139 号
※ 第 210 号	※ 昭和 45.10.3 16.39	
大至急	至急	普通・LTF
	※ 発電係	支

大臣 政務次官 事務次官 外務審議官 外務審議官 官房長	主管 アメリカ局長 参事官 北米オ一課長	主管局部課(室)名 パナマ局北米オ一課 起案 昭和45年10月3日 起案者 239 電話番号 446
---	-------------------------------	---

協賛先  
中曾根 米保長印

在沖繩 高瀬 臨時代理大使  
総領事 代理 米保長印

電報 在 大使 臨時代理大使  
総領事 代理 米保長印

件名 中曾根 防衛庁長官の訪沖 (便宜供与)

1. 今般 防衛庁より、中曾根長官他5名が、7月

ハム 在日米軍司令官の招待により、在沖繩米軍事情

視察の為 7日 (JAL 721 初日) 8日 (JAL 722

貴地(沖繩)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日

貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日 貴地(那覇)の両日

字 済 294

なお、防衛庁は貴地へ長期出張中の自衛官1名  
同行を希望越しているとの事、申し添える。

を希望越した。(米側の日程案によれば8日  
午前10時とされている。)  
ついでに、所要の便宜供与は主として米軍  
が行なっているが、貴地空港における送迎  
等米側との協力の上、然るべく便宜供与あり  
たい。

又、同長官主要日程次の通り。

7日	13:30	那覇着
	14:00	高等弁務官表敬
	15:00	空母艦(1) 視察
	16:30	カタ基地 視察
	18:30	高等弁務官主催レクゾ
	20:00	司令官主催 夕食
8日	8:30	カタ基地 那覇空軍基地







米局長印

アメリカ局長  
参事  
北米第一課長

中曾根長官の行動について

25. 10. 8  
米北 / (5頁)

8日 1:30 現在の長官の行動は、三木  
二等陸佐の電話連絡次第とあり。

記

10月8日

8:15 ~ 那覇空軍基地及び那覇港  
10:00 視察

10:00 ~

10:10 護国神社参拝

10:10 ~ 高瀬大使と懇談 (準備委  
10:30 日政代表事務所)

10:30 ~ 屋良主席と懇談 (準備委  
11:00 琉政殿内代表事務所 (注))

11:00 ~ 記者会見 (準備委日政代表  
11:30 事務所)

11:30 ~ 自民党有志及び土地連合会  
12:00 代表と懇談 (準備委日政  
代表事務所、但し部屋別)

12:00 準備委出発 民政府へ

(注) 中曾根長官は屋良主席を往訪し  
懇談し、屋良主席は準備  
委員

委へ赴き、同主席は長官を往訪  
し形式上とした。

(2) 各要人懇談及び記者会見の内容  
は別紙照会した。三木陸佐は

同席に於て、承知し、  
趣意あり、公電等による報告は  
必要と判断した。



再記

十月五日 防衛庁 鈴木平次 号事 送付 秋也 等の

（高瀬大佐等の電話具申より起る。三日午後）

中曾根長官ステートメント  
（七日別着の電報参照）  
あつた五日午後防衛庁より電報にて

私は本日グラハム在日米軍司令官のお招きにより、当地沖繩にま

いりました。本日から明日にかけて沖繩の各種防衛施設をしたしく

視察し、これからの防衛庁の施策の参考としたいと思います。

あわせてこの際米当局者及び日本政府代表者のほか、屋良主席及び

地元の方々ともお会いして意見を交換し、当地の実情を把握すると

ともにその結果を政府の施策に反映させたいと存じます。

私が今回グラハム在日米軍司令官の招待により来島したことは、

米側と親善を深め、現地を精査することにより今後の沖繩返還に伴

り日米交渉を円滑に行なおうとする趣旨に基づくものであり皆様方

のご期待に沿うより努力いたすものであります。

中曾根長官ステートメント

私は本日グラハム在日米軍司令官のお招きにより、当地沖繩にま

いりました。本日から明日にかけて沖繩の各種防衛施設をしたしく

視察し、これからの防衛庁の施策の参考としたいと思います。

あわせてこの際米当局者及び日本政府代表者のほか、屋良主席及び

地元の方々ともお会いして意見を交換し、当地の実情を把握すると

ともにその結果を政府の施策に反映させたいと存じます。

私が今回グラハム在日米軍司令官の招待により来島したことは、

米側と親善を深め、現地を精査することにより今後の沖繩返還に伴

り日米交渉を円滑に行なおうとする趣旨に基づくものであり皆様方

のご期待に沿うより努力いたすものであります。

秘  
無期限

予録  
アメリカ局長  
参事官2名  
安全保障課長  
北米才一課長

中曽根防衛庁長官訪沖に際し  
利用されたべき擬向擬答(防衛庁案)

45. 10. 6  
北米才一課

1. 10月5日防衛庁江藤参事官が大河原参事官  
を来訪し、中曽根長官の訪沖に際し、防衛

庁内で擬向擬答を作成中であるが、予め最  
終案を固める前に外務省の考えを十分承りた

いこと、<sup>速い</sup>後帰の際の米軍施設の提供、復元  
補償、人身被害補償、基地周辺対策、後序

後の米軍労務者の雇用形態等につき<sup>(彼等)</sup>意見を  
交換した。

2. 追って10月6日午前防衛施設庁総務課  
山下課長補佐が上記1.の意見交換に基づき

作成した擬向擬答案(別添)を北米1課  
多田に持参した。

(中間1より附5#を)

3. 上記2の擬向擬答案は、当方の考えを十分  
取り入れた妥当なものと認められるので、外務  
省としては右案にて差支ない旨防衛庁側に

通報することといたし左り。

但し、明6には、●館長官の通り  
修正を申入れたこととしたい。

甲  
小がみ  
三つん  
長

大河原米事案の  
示唆による訂正、并

防衛省 防衛研究所  
防衛研究所 防衛研究所

1

同一沖絶の後帰の際、米軍施設（水域を含む。）の敷地  
積はどうなるか。また米軍施設の提供はどのような  
な形で行なわれるか。

答 日米内閣政府が、施設の必要性と沖絶住民の  
民生との間の調和に十分配慮しつつ、十分検討を行  
なった上、後帰以後提供されるべき施設及び区域が  
確定されるものと考えている。

また後帰と同時に、日米安保条約に基づいて  
行なう米軍施設の提供は、地位協定に定める手続  
に従って、円滑に処理したいと考えている。なお土  
地使用権取得の方法については、政府部内において  
検討中であるが、地主の希望又は立場を考慮しつつ、  
妥当な解決が図られるものと考えている。

(参考)

本問題は、琉球政府立法院から提出された「施政  
権返還に伴う措置に関する要請決議」別款一六（県民  
の要求する軍用地の開放）及び別款一七（軍用地老の干渉  
管理権の琉球政府への移管）に関連

問ニ復元補償及び占領期間中の人身被害補償の処理方針いかん。

答 現在、沖縄において未処理となっている復元補償、占領期間中の人身被害補償等の処理については、それぞれ的事業関係を調査のうえ、公正妥善な解決を図るよう努むたい。

(参考)

本問題は、琉球政府立法院により提出された「施政権返還に伴う措置に関する要請決議」別紙一(軍用地の返還に際し、形質変更された土地の復元又は補償)及び別紙二(講和前における米軍の行為による人身被害及び財産に対する損失の補償)に関連

問三 沖縄の復帰後における基地周辺対策については、どのよう  
うに考えているのか。

答 沖縄の復帰以後の騒音防止対策その他の基地周辺対  
策については、本工に準じ、十分な施策を講ずる所存で  
ある。

問四 本土においては、飛行場の一部に消音装置を取りつけているとのことであるが、その実態はどうか。また、消音装置を取りつけた場合、どれ位の防音効果があるか。

答 現在、本土においては、日米合同委員会の合意に基づき、横田、厚木の両飛行場に合計七基の消音装置を取りつけている。この消音装置の効果は、おおむね、三〇はいい四〇のボーン音響が下がるものようである。



問六 復帰後

沖縄の米軍に勤務する日本人従業員を本

土と同様の形態で雇用した場合、労働条件は、ど

のように改善されるか。

答

復帰後の労働条件については

日本国限り

水土並

みの労働条件は近づけるための努力をする考えである。

(参考)

とあるのがある。

本問題は、琉球政府立法院により提出された

「施政権返還に伴う措置に関する要請決議」別紙

一五(雇用者の特遇改善)の(一)に関連



北米一課

中曾根長官の行動

25.10.8  
米北1(台川)

8日午後、中曾根長官の行動は、機内三木  
二等陸佐の5の電話連絡が主なり。

記

12:03 漢陽至日政代表事務所を民政庁へ  
25日 - 民政官と会談(会談時間)

三木陸佐の承知(20:00頃)

39日 八ヶ岳 - White Beach

ミサイル基地視察

三木(着陸。陸路摩文仁へ  
5陸佐)

黎明之塔、群島の塔、島守塔

巡回(宮崎次長案内)

17:10 那覇空港着、休憩

17:45~

18:15 記者会見(空港貴賓室)  
休憩

19:31 空港発 JL722

(注) 空港出発は予定より50分遅れた

こと、右は雨天のため滑走路

が状態が悪かったことによる。

トータルなし。

(2) 記者会見の内容等公電を以て

報告する。



万大  
 務次  
 典務  
 臣官密審長長  
 備人電厚計  
 備文会管給  
 参(行企)  
 参領旅移  
 参地中東  
 長北東西  
 参北北保  
 中南  
 参一  
 参西東洋  
 長  
 参書近ア  
 次総経団万  
 参買統  
 参政技二  
 團一理  
 参家協規  
 参政綜科  
 軍社専  
 参進内外  
 長  
 長文長

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

555

総番号(TA) 89977  
 70年10月8日1時20分 沖繩 米北  
 70年10月8日23時4分 本省 若

外務大臣殿 高瀬大使 臨時代理大使 総領事 代理  
 ナカソネ防衛庁長官の記者会見(第1回)

第4/9号 平 至急

貴電米北/第2/0号に関し

ナカソネ長官は8日午前、当事務所において約20分間記者会見を行なつたところ、その模様大要次の通り。(カッコ内質問)

1. (ヤラ主席との会議について)、主席より、(1)基地問題についてはおきなわの開発計画を考慮していただきたい。(2)軍労務者の解雇問題及び(3)自衛隊配備にともなうけん民の戦争不安に基づく反対意見に対して御配慮いただきたいとの要請がなされたので、これに対し、自分(長官)より、(1)おきなわ基地の計画は現在米国防府で立案中なので完了次第お知らせする。(2)軍労務者の解雇問題は本土と同様に取扱つて行きたい。(3)自衛隊は往年の軍隊と異なり、専守防御の部隊で、平和時においてはさし警派遣等民生にほろしするものであることを説明し、自衛隊はおきなわに展開する予定であると伝えておいた。

2. (人口密集地の米軍施設に自衛隊が入れば将来の都市

外務省

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

計画と競合しないか)、先般米国においてレアード、キン  
 シンジャー等と会談した際、これら地域の早期返かんを強  
 く要望したところ、米側は協力を約した。具体的な内容に  
 ついてはまだ決められていないが、相当の成果が期待でき  
 るものと思う。なお、防衛庁内に対して自衛隊の展開に対  
 してはけん民のめいわくにならないよう、また、米軍とて  
 きるだけ滞在しないよう先般指示したところである。また  
 、けん民感情をしようあくするため、りゆうきゆう政府と  
 市に対する接触を積極的に行なうよう駐在の自衛隊に対して  
 昨日注意を与えたところである。

3. (復帰に対するけん民の不安をどう思うか)、政府として  
 はけん民の不安を解消するよう努力する。なお、来年度は  
 施設庁関係約260人を配置し、けん民との話し合いを進め  
 させるほか、準備要員を約70人配置する予定である。

4. (軍用地の借上げ問題について一括契約は困るという  
 声があるがどう思うか)。

内地でもふじの演習場等は一括契約であり、いちがいに個  
 別契約にするとは言えない。

5. (軍用地の借上げ問題について、借上げられた時の状  
 況が当地では強制借上げであつた点が本土と違うので特別  
 の配慮が必要ではないか。)これららの話し合いが大切で

外務省



注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

日米交渉も相手の意思を無視するが如き態度でなく、どう  
 とうと明るい交渉を進めて行きたい。米國は現在海外駐留  
 の削減傾向にあるので旅人のマントをぬがせるイソツプの  
 ぐう話にある如く「帰れ帰れ」とさげぶよりは労をねぎら  
 う方がかえって良策だと考える。

(3) 基地関係の問題に限らず経済、社会等の全般にわた  
 る難題が山積している。これに対する日本政府の作業  
 のテンポも意の如くならざる点もあるように思える。各省  
 毎にタイム・スケジュールを作つて問題はかた付いていな  
 ければならない。このことは明9日の閣議で取上げたい。  
 おきなわ関係閣僚会議をひんぱんに開き政治レベルで推進  
 して行きたい。

(4) ヤラ主席をそんけいしている。同主席がイデオロギ  
 ーにとらわれず不へん不党の立場をとらんと努力している  
 ことを多としている。今後ともかかる立場を続けていた  
 きたく、われわれも協力はおしまない。

(5) 主席は、世論が自衛隊配備が戦争に連なるとみてい  
 ると述べたが、自分としては同意し難い。声なき世論とい  
 うこともあり、戦争に結びつくものと断定は出来ない。現  
 在の自衛隊は専守防衛に任じ、また民生に協力するもので  
 ある。しかし、復帰後はおきなわが日本国主権の一部とな  
 り、国家としておきなわを守る責任が生ずるので、自衛隊

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

配備は当然である。

(6) 防衛庁では来年度に(イ)制服及び職員からなる準  
 備要員70名位の派遣を考へており、(ロ)防衛施設庁  
 については260名位の派遣を予定しているが、長には施  
 設庁の次長クラスを考へており、公使の称号を与へ大使の  
 指き下におきたいと思つている。基地問題解決については  
 。話し合いには誠意を以つて臨み、納得のある線を出し  
 して行きたい。くろされたおきなわの方々に対するおん返  
 しの意味でも誠意と努力を傾注したい。

2. 記者団との質疑応答(カッコ内質問)

(1) (弁務官との会談について)。先方からおきなわ施  
 政全般にわたる説明を受け、自分からは、(イ)ガス兵器  
 。(ロ)人口密集地にある基地の返かん等レアド長官と  
 の会談内容を先方に伝えたところ、先方は具体的にになると  
 場所によつては返かんが難しかろうと述べていたが、どの  
 基地とは具体的に挙げなかつた。

(2) (復帰作業が遅れているというが、どの面で遅れて  
 いるのか)。防衛関係を含め全般にわたつて遅れている感  
 じだ。事務レベルでは進められてはいるが、政治  
 のレベルに上つてこない。政治家が時々ぞいて指導  
 する必要がある。間接雇用制実現についても具体的なツメ  
 がなされていながつたと言える。しかし、最近WORKI

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

NG GROUPが出来て作業を開始したのでかなり進ちよくしている感じだ。

(3) (ナハ空軍基地を全面的に返してもらえるか)。全面返かんは難しいだろう。共同使用となるう。

(4) (現在のおきなわの米軍基地の規模は今後の安保体制に必要か)。時の推移によつて変わるもので。現在のままでよいかどうかは検討の必要があるが。本土において自衛隊の増強にともない在日米軍が減つたように。おきなわでも十分減る可能性はある。

(5) (オキナワに於ける米軍と自衛隊を夫々やりとたてに例えた場合。やりの部分が余りにも強く。専守防衛をけん持することが難しいのではないか)。自衛隊の任務は専守防衛にまつするもので。それ以外の何ものでもない。

(6) (先島の配備について)。レーダーサイトは配備の対象となる。兵員配備の希望も各方面から出されている。

(7) 当初展開については。大きな変化がない限り3,200人とみてよい。施設部隊は本土の兵力を削いても持つて来る必要がある。おきなわ配備自衛隊の司令官はまだ決つていない。将補クラスを考えている。

(丁)

- 4 -

外務省

極秘 747

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

総番号(TA) 5024 / 主管  
 70年 月 9 日 15 時 45 分 沖繩 署 米北1  
 70年 10 月 9 日 21 時 10 分 本省 署

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

ナカソネ防衛庁長官の来ちゆう

第422号 極秘

1. ナカソネ大臣、ランバート弁務官の会談は空港より米側ヘリコプターにてランバート中将、グラーム中將及び本使同乗、司令部に到着直ちに開始された。その主なる点左記の通り。

(イ) 大臣より、復帰準備への弁務官以下米側の誠意ある努力に謝意を述べられ、弁務官また本邦側への謝意を表明した。

(ロ) 大臣より、おきなわには当初展開として3200名の隊員を出し、地区連絡部長にはおきなわ出身の一さまたは二さを以つて当てる、なお、来年度予算により60名の将校と260名の施設関係のものを以つて構成せる出先機関を置くこととし、その長は公使の資格を持たせることとしている旨の説明あり、弁務官これを了承す。

1 (ハ) ドカシキ島の旧アーク基地の国立せい年の家への転換につきてはワシントンにおいて国防長官にホノルルに

外務省

ソカヒ 石大 傳設

大政(列)領官  
 務務 典務  
 次官 審察長長  
 備人 電厚計  
 備 文 會 營 給  
 備 費

固 参調(上)  
 資 参領旅移  
 長 領 務 移 長

ア 参地中東  
 長 北 東 西  
 米 参北北保  
 中 参一  
 南 参西東洋  
 部 参一  
 長 西

近 参書近ア  
 ア 参書近ア  
 長 次総経國万  
 経 次

長 参習強國  
 経 参政技二  
 協 長 参一理  
 長 参参協  
 長 参政経科  
 長 参道内外  
 長 参道内外  
 長 参道内外  
 長 参道内外

長 参道内外  
 長 参道内外  
 長 参道内外  
 長 参道内外

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

て「マツケーン」司令官にもこん談したるにつき弁務官も了知ありたしとの大臣発言に対し、弁務官は当該基地の保管状況は良好なりと述べた。

(ニ) 民家と入り交つた基地または施設の返かんは長期にわたる日米友好関係のじゆ立のため極めて必要なりとの大臣発言に対し、弁務官は現在にても米要員の約50%は私的契約による施設外にきよ住しおること及び返かんしたる際の代替地の確保が極めて困難なる事情にあることを申述べ、更に自分は訓令を執行するが、意見を具申する立場にあり、交渉はマイヤ一大使が行なうべき旨を付言した。(大臣は別途本使に対し、本件は日米関係の根本義よりせひとも実現の要あり、あくまで努力すべしと内話ありたり)

(ホ) 大臣より、自分の訪らゆうにつき反対の意見を有するものあるべきも、同じ日本人につき説得理解せしめるより努力する方針なりと説明す。

(ヘ) 国会において質問ありたるが、VOAと第7心理作戦部隊の性格如何との大臣発言に対し、弁務官は、VOAは米政府の機関にて協力する立場なるが、心理部隊はき下にある軍の部隊なる旨を説明した。

(ト) 大臣より、今次旅行につき希望ありとて、(1) 全島をヘリコプターにてちようかんしたし、(2) 護国じん

極秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

社及びマプニを参けいしたし、(3) 主席訪問後行政府において約10分間記者会見をなす旨を申出て弁務官及び「グ」司令官これをはい承その通り手配すべき旨決定された。

2. 7日よるの弁務官レセプションには主席以下多数の列席あり、大臣は主席とこん談されその後のグラーム司令官のぼんさん会も滞りなく終了した。

3. 大臣の当代表部に來訪される予定時間より先きにヤラ主席來訪したるにつき事情を質したるところ、警備上の理由にて官公勞せい年部、高教組暴力学生の動きにかんがみ自分の方より出向きたることに付き大臣にセナガ顧問代理の室にてこん談あるよう願いたるが主席は辨日団体のとなえおる自衛隊の配備反対に追従し、戦力に連がる自衛隊の配置は戦争不安を起させるにつき、配慮ありたいと及び勞務問題等につき言及したるが、大臣より、自衛隊は専守防御の性質にて戦争不安うんぬんは誤解なることを明りように指摘され、主席も後刻本使に対し、大臣の発言を理解しおることを内話した経緯あり。(主席提出のちん情書空送す)

4. 当代表部における記者会見及び空港における記者会見は往電第4/9号及び同第42/号を以つて報告の通りであるが、空港におけるそつ直真執なる大臣の説明は記者団

極秘

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

を印象付け、質問等は極くきん少短時間であつた。  
 5. 大臣の米側接遇につきての御感触如何との質問、ラン  
 パード弁務官、グラーム司令官より、再三にわたり質問あ  
 り、本使より、満足かつまた、多とせられおる旨の応答を  
 行ない、大臣また、したしくその旨を直接申述べられ同司  
 令官に初めて安どのいろを見受けたる経緯あり、今次ナカ  
 ソネ大臣の来ちゆうにつきては米側は極めて深刻なる配慮  
 を行ないおりたることは驚かひの嚴重と相まち本使の特に  
 かんするところであつた。

(了)

万六  
博殿

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

136

電信写

総番号(TA) 30275  
 70年10月9日09時15分 仲 緩 主 管  
 70年10月10日10時00分 本 省 着 料

外務大臣殿 高瀬(大使) 臨時代理大使 総領事 代理

ナカソネ防衛庁長官に関する報道振り

第426号 平

往電第4/9号に関し

- 1. 8日付ゆう刊当地各紙は第1回記者会見の内容を概ね  
ちゆう実に第1面に報道した。(切ぬき空送)
- 2. なお、社会面においては各紙ともナカソネ長官とヤラ  
主席との会見場所がGRIから急拠当事務所に変更された  
ので、抗議団体がかたすかしをされたとして報道している  
。なお、りゆうきゆう新報は長官の護国じん社参ばいと主  
席の自衛隊配備反対に対する長官の見解を報道し、また、  
おきなわタイムスは会見場所変更の件と機動隊の実力排除  
により抗議団に数人のけが人が出たことを報道している。

本件防衛庁に回付あり。(了)

大政経外防衛  
 務務 典務  
 臣官官審審長長  
 備網入電厚計  
 儀書文会管給

國資長領移長  
 參調研企  
 參領旅移

ア 參地中東  
 長 北東西  
 米長 北北保  
 中 參一三  
 南 參西南洋  
 審 西東  
 政 長

近ア長 參近ア  
 經 次總経國万

長 參貿統  
 經 參政枝二  
 協 國一理  
 長 參条協規  
 國 參政経科  
 長 軍社寧  
 情 參道内外  
 長 文長





ソカヒ  
ワ大  
ワ大  
ワ大

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

130

大務外務  
務務 典房  
次次  
巨官官審審長長  
儀総人電厚計  
備書文会當給  
備  
国賢長領移長  
参調研企  
参領旅移

電信写

ア 参地中東  
長 北 西  
参 北 保  
中 南 審  
欧 参 西 学  
長 西 京

近ア長 参審近ア  
長 次総経国万  
長 参賢統 国  
長 参政技二  
長 参政一理 国  
長 参参成規  
長 参政経科  
長 参軍社專  
長 参道内外  
長 一二

総番号(TA) 50270 主管  
70年10月9日 09時58分 沖 緩 発 着  
70年10月10日 00時53分 本 省 着 粗

外務大臣殿 高瀬 大使 臨時代理大使 総領事 代理

防衛庁長官に関する報道振り

第427号 平

往電第427号に關し

1. 9日付朝刊当地各紙は第2回記者会見の内容を概ねちゆう突に一面トツプで報道した。(切ぬき空送)

2. なお。社会面においては。りゆうきゆう新報は。自衛隊反対は世論ではないという長官の主席に対する反論をややせん動的な見出して報道するとともに。おきなわタイムスは復帰協ナカソネ事務局長の長官の態度はけん民大衆の前に一歩も現れきれなかつた長官のおきなわでの不安のうら返してであるという談話を発表している。

なお。マブニ参ばいについては各紙とも写真入りで報道している。

本件防衛庁に回付ありたい。

(了)



アメリカ局長  
参事官  
北米才一課長

秘密標記 (赤色)

**極秘**

(部外談話) ( ) 第 202 号  
昭和 45 年 10 月 8 日

外務大臣 殿

在 準備委代表事務所  
高瀬 代



- 要処理
- 専務事務官
- 渉外調査
- 業務
- 航空
- 科学協力
- 連絡調整
- 調査
- 力子夕
- 局庶務

(件名)  
中曾根防衛庁長官とラソハート高等事務官、グラハム司令官との会談録送付

引用公・電信  
日付・番号 10月3日付米北1第210号

標記会談録 6部別添送付する。

付添送付  付添空便 (行)  付添空便 (DP)  付添船便 (貨)  付添船便 (郵)

本信送付先：  
本信写送付先：  
配付先：





TRANSIENT OFFICERS QUARTERS  
KADENA -  
KADENA, OKINAWA

10/11 15:15 ~ 18:40 於 琉球陸軍司令部

出席者 菅原, 高津坂大使

予ハノ上高岸者箱館, 予ハノ在日米軍司令部, ノル政道顧問  
(通訳 三浦・カサキ)

当初 出席者 菅原, 途中 高津坂,  
(秘書長(書記))

① 菅原ニヨリ 神鏡ニ付 年刊制ノ委任委員, 予ハノトモ 承認シテハス。此委任  
ノ早サハ 菅原ト 菅原。昨午ノ大統領ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
推シテ 予ハノト行クニハス。

② 諸陣中 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
在任者ト 菅原ト, 誠意ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
細得ト 菅原ト 菅原ト。

③ 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト

④ 在任ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
此世ニヨリ 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト

⑤ 1969年 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
自任人ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト

⑥ 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト

⑦ 神鏡ノ 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト  
菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト 菅原ト





秘密標記 (赤色)

極秘

アメリカ局長  
参事官PT  
北米第一課長

( ) 第 212 号

昭和 45 年 10 月 15 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所  
高瀬 代



(件名)  
中曾根防衛庁長官とランパート高等参事官との  
会談録 (英文) 送付

引用公・電信  
日付・番号 10月8日付 往信第202号

標記会談録 6部 別添送付する。

付添添付  付国空便 (行)  付国空便 (DP)  付国船便 (貨)  付国船便 (郵)

本信送付先：  
本信写送付先：  
配付先：

GA-3-1

2426

在外公館

要処理
首席事務官
商 力
調査
漁 業
航 空
協力
連絡調整
調 査
力 十 夕
局 庶 務



一、防衛省に送るもの  
二、中曾根防衛庁長官に送るもの  
三、中曾根防衛庁長官に送るもの  
四、中曾根防衛庁長官に送るもの  
五、中曾根防衛庁長官に送るもの  
六、中曾根防衛庁長官に送るもの  
七、中曾根防衛庁長官に送るもの  
八、中曾根防衛庁長官に送るもの  
九、中曾根防衛庁長官に送るもの  
十、中曾根防衛庁長官に送るもの



Confidential

HCRI-LN

8 October 1970

MEMORANDUM FOR THE RECORD

SUBJECT: Meeting Between Minister Nakasone and High Commissioner Lampert

1. Minister Nakasone stated that the reversion of Okinawa would be accompanied by many difficult problems. The Japanese were approaching these problems with sincerity and he wished to ask for the cooperation of the High Commissioner.
2. General Lampert assured Minister Nakasone that he wished to extend complete cooperation in the working out of reversion problems. US authorities on Okinawa wish to do everything possible to carry out the letter and the spirit of the Nixon/Sato Communique.
3. Minister Nakasone noted that "Kakushinkai" elements were expressing opposition to his visit to Okinawa. The Japanese would do their best to persuade the Okinawan people, including such opposition elements, concerning the Nixon/Sato Communique, which the Government of Japan wanted completely implemented. The opposition also were Japanese and their opposition stemmed from misunderstanding or prejudice. He wished to persuade them without harassing them and with a spirit of generosity. General Lampert said that he was pleased to see that Chief Executive Yara had come to meet Minister Nakasone on his arrival at Naha Air Port. The Minister said he also was very pleased.
4. General Lampert told Minister Nakasone of the advice given to him by Prime Minister Sato when he met the Prime Minister in January 1969 en route to Okinawa. The Prime Minister had expressed the hope that General Lampert would bear in mind that the one million people in the Ryukyus were Japanese. General Lampert said he had always born the Prime Minister's advice in mind.
5. Minister Nakasone mentioned Mr. Uehara and said that Uehara had named his son after the Minister. General Lampert said that there were of course difficult problems which arise in US relations with Uehara and the Zengunro labor union but that nonetheless he had a satisfactory relationship with the Zengunro.

CONFIDENTIAL

HCRI-LN

8 October 1970

SUBJECT: Meeting Between Minister Nakasone and High Commissioner Lampert

6. Minister Nakasone then referred to current discussions between Vice Admiral Curtis, JDA Minister Shishido in Tokyo concerning the deployment of Japanese Self Defense Forces to Okinawa. The minister told General Lampert that it was presently planned to deploy 3200 Japanese military to Okinawa within six months after reversion. The minister expressed gratitude for the billets and facilities which these Japanese units were expected to use on Okinawa. The minister said that it was currently planned to send to Okinawa next year 70 JDA personnel as well as 260 DFAA personnel who would come for the purpose of studying facilities. Of course this plan depended on the budget being approved.
7. General Lampert said that the specifics were handled by Admiral Curtis, General Graham and their staffs. US authorities on Okinawa were prepared to carry out whatever was agreed to by the two governments. General Graham told Minister Nakasone that his staff was in the process of isolating and identifying facilities on Okinawa and that the minister would be seeing some of these facilities during his current visit.
8. Minister Nakasone said that the Japanese viewed as very important the question of studying and acquiring facilities on Okinawa and the related question of local national employment. Plans called for the dispatch to Okinawa of a senior official of Ministerial rank who would probably become the Bureau Chief of the DFAA later on.
9. General Lampert said he hoped that the Japanese Government would give full consideration to the employment of Okinawans presently employed by the United States and he hoped that the Japanese Government would be discussing this with the US as its planning progressed. Minister Nakasone said that this would be given maximum consideration.
10. Minister Nakasone told General Lampert that the Japanese were also thinking of assigning an officer of Colonel or Lieutenant Colonel rank to Okinawa as a JSDF liaison officer.
11. Minister Nakasone said that when he returned to Japan he would like to look into the possibility of sending a JSDF band and JSDF movies to Okinawa for PR. General Lampert commented that he would be guided by the advice of Admiral Curtis and General Graham and would cooperate in whatever might be agreed to on this matter.
12. Minister Nakasone said that he might also send to Okinawa some Japanese WACs. General Lampert asked if there were any Okinawan women in the JSDF to which Minister Nakasone responded in the negative.
13. Minister Nakasone told General Lampert that he had had discussions with Defense Secretary Laird and Admiral McCain concerning the problem of many US bases on

CONFIDENTIAL

HCRI-LN

8 October 1970

SUBJECT: Meeting Between Minister Nakasone and High Commissioner Lampert

Okinawa being interwoven with the civilian community. The minister felt that it was best from the long term point of view to separate US bases from the civilian community. Minister Nakasone then said that this question was something to be considered on reversion when agreements had to be concluded with Okinawan owners of base land.

14. General Lampert told the minister that he was aware of the minister's discussions with Secretary Laird and Admiral McCain. General Lampert commented that the United States would be making space on Okinawa available to the JSDF with some difficulty. If the US had to give up facilities the US currently occupied, additional Okinawan land would have to be acquired. General Lampert said that, in mentioning this practical problem, he of course had no intention of qualifying the assurances he had just given Minister Nakasone of his wish to cooperate fully with the Japanese Government in working out arrangements for JSDF deployment on Okinawa.

15. General Lampert then told the minister that only 50% of the US military families presently stationed on Okinawa could be accommodated in US base housing. The remaining 50% had to find accommodations on the Okinawan economy.

16. Minister Nakasone remarked that talks on these matters would be carried out between the US and the GOJ in the future. In raising this subject he simply wished to express the Japanese view of the long term and to obtain US understanding of this view.

17. Minister Nakasone brought up the question raised in a recent Diet interpellation, namely the disposition of the Voice of America and the 7th Psychological Operations on Okinawa. The opposition claimed that these operations would be outside the terms of the Mutual Security Treaty. General Lampert explained that the 7th Psychological Operations fell within his responsibilities as Commanding General, US Army, Ryukyu Islands, whereas the Voice of America was civilian operations to which he provided logistic support. The Voice of America has its headquarters in Washington. He told Minister Nakasone he was aware that there had been some discussion of Voice of America in Tokyo. As Minister Nakasone was aware, Ambassador Meyer was principal US negotiator on all reversion matters and Minister Schneider and the Japanese Foreign Office were principal day-to-day negotiators with the High Commissioner being in a supporting role.

18. Minister Nakasone said that Director General Yamanaka of the Prime Minister's Office had asked him to bring up the question of the missile site on Tokashiki Island and Minister Yamanaka's wish to use the site for a Youth Center (Seinen No Ie). Minister Nakasone said he had also raised this matter in his recent discussions in Washington and

HCRI-LN

8 October 1970

SUBJECT: Meeting Between Minister Nakasone and High Commissioner Lampert

Hawaii at Minister Yamanaka's request. General Lampert recalled his discussion with Minister Yamanaka in June at which time he had suggested that Minister Yamanaka consult with Minister Nakasone who might need the Tokashiki site for Japanese defense purposes. He had also told Minister Yamanaka that the disposition of the site would of course also have to be discussed in US-Japanese negotiations concerning Japanese assumption of defense responsibilities in Okinawa. Minister Nakasone then remarked that Tokashiki did not meet specifications for a missile site. General Lampert responded by noting that the site on Tokashiki had been used as a Hawk missile site and had proved to be a very good one. The United States had ceased operating it in 1969 only because of overall reduction in the air defense force on Okinawa. The former Tokashiki missile site was currently in excellent condition. A small maintenance unit was taking care of it. Minister Nakasone recalled that in his recent discussion, there had been some joking over the Japanese Defense Minister not wanting the Tokashiki site for defense purposes. Minister Nakasone concluded by saying he was in the position of simply relaying Minister Yamanaka's request.